

令和6年度 学校評価書

四万十市立中村小学校
 学校長 村松 人巳 印

1. 学校教育目標

「夢や目標をもち 学び合い つながり合い 主体的に未来を拓く児童の育成
 ～かしこく やさしく たくましく～」

2. 本校の現状

- (1) 児童数275名(令和6年5月1日現在) 通常学級11 特別支援学級2
 (2) 「令和の授業を創る」推進プロジェクトにおける令和の授業づくり講座(国語科)
 四万十市研究推進校指定事業「学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善」
 (3) 学力
☐ R5年度全国学力調査結果 【小6】国(+14.2) 算(+13.8)
☐ R5年度高知県学力調査(12月実施) 【小4】国(+9.3) 算(+12.5) 【小5】国(+8.3) 算(+10.5) 理科(+5.9)
☐ R6年度標準学力調査(4月実施) 【小2】国(+2.7) 算(+6.2) 【小3】国(+4.7) 算(+8.8)
☐ 【小4】国(+3.3) 算(+6.3) 【小5】国(+2.1) 算(+5.7)
 ◆2・3・4・5年生 国語評定1:27.8% 算数評定1:18.3% *低学力児童への補充指導が必要。
 (4) 生徒指導上の諸問題(令和5年度 不登校、いじめ、暴力行為)
☐ 不登校(5人) ☐ いじめ(0件) ☐ 暴力行為(1件) ☐ Q Uアンケート(2回目) 不満足・要支援群8.0%
 (5) 全国体力・運動能力調査偏差値(令和5年度:5年生) ☐ 男子:51.6 ☐ 女子:55.1
 (6) 特別支援教育(令和6年5月1日現在)
☐ 特別支援学級児童7名 ☐ 発達障害の診断がある児童10名 ☐ 特別な教育的配慮を要する児童35名

3. 本年度の評価項目

- [1] 学力向上
 ①学力向上のための組織的な校内研修等の取組
 ②主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり
 ③予習・復習の質と量を高める取組
 ④基礎学力定着のための取組
 [2] 生徒指導
 ①いじめの防止等のための取組
 ②不登校への総合的な対応のための取組
 [3] 学校・家庭・地域の連携・協働
 ①保幼小、小中の円滑な接続の推進
 ②ふるさと教育の推進
 ③みんなであいさつ運動
 ④地域学校協働本部活動とコミュニティスクール・学校運営協議会の充実
 [4] 働き方改革(業務改善)
 ①業務の効率化と働き方改革
 [5] 特別支援教育
 ①特別支援教育と支援体制の充実

4. 自己評価

評価項目		評価指標	取組状況・成果		評価	次年度の方策
大	中					
(1) 学力向上	①学力向上のための組織的な校内研修等の取組	☐ 教員の「カリキュラムマネジメント・校内研修アンケート」(1～4段階:4点満点)の全項目平均:3.3点以上 ☐ 高知県学力調査(12月:4・5年)及び標準学力調査(1月:1・2・3・6年)の平均正答率全国比+5P超	☐ 全国学力調査(全国比):6年 国語+7.4 算数+9.7 ☐ 高知県学力調査(目標値比) 4年 国語:+9.7 算数:+13.8 5年 国語:+2.1 算数:+9.4 理科:+6.5 ☐ 「カリキュラムマネジメント・校内研修アンケート」全項目平均:3.5点/4点満点 ☐ 校内研修の内容が効果的だと回答:3.8点/4点満点 ☐ 授業研究や各種研修の成果を日々の授業改善に生かしていると回答:3.8点/4点満点 ◎「令和の授業づくり講座(国語科)」,校内研究等、計画的に研修を進めることができた。	3.5	◆組織的な取組の進捗を図るため、研究推進委員会を確実に実施し、全教職員で共通理解を図りながら、学力向上に向けた組織的な取組を行っていく。 ◆「授業で力をつける」を合言葉に、日々の授業改善や加力学習、家庭学習の工夫等について、学校全体で取り組んでいく。	
	②主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり	☐ 学校評価アンケートで「授業がよくわかる」と強い肯定的評価をする児童70%以上 ☐ 「授業改革アンケート」・「ユニバーサルデザインによる授業づくりアンケート」の全項目平均3.3以上(4点満点) ☐ 授業研究における授業評価(教員相互)総合平均3.2以上(4点満点)	☐ 学校評価アンケート「授業がよくわかる」の強い肯定評価:64%、肯定的評価:95% ☐ 「授業改革アンケート」・「ユニバーサルデザインによる授業づくりアンケート」・「研究授業授業評価(教員相互)」の全項目平均:3.1・3.4・3.1/4点満点 ◎各種授業研究や校内研修を通して、研究主題「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりー各教科等の見方・考え方を働かせてー」を意識した授業が概ねできている。 ▼ICTの効果的な活用と子どもの学びの深化については課題がある。	3.2		◆指定事業(四万十市1校1役教育研究事業、国・県等の研究指定事業)により授業研究を充実する。 ◆「授業で力をつける」を合言葉に、「授業改革ハンドブック」「国語科授業づくりのポイント」等を適宜活用しながら、学級差が生じないように統一感を持った授業づくりを推進していく。 ◆研究授業だけでなく、日々の授業を見合うことで日常的な授業改善・授業づくりにつなげる。
	③予習・復習の質と量を高める取組	☐ 家庭学習目標時間が達成できる児童90%以上 ☐ 自主学習ノートA評価65%以上 ☐ 時々予習する児童90%以上	☐ 家庭学習目標時間が達成できる児童:76% ☐ 時々予習する児童(1学期・2学期):89%・92% ☐ 自主学習ノートのA評価各学年平均:62% ◎自主学習ノートの展示・紹介、学級・学年間ノート交流等を通してノートの量・質が向上している。 ▼家庭学習の徹底には個人差がある。	2.8		◆年度当初に、家庭学習について教員の共通理解を図り、学校全体で児童、家庭に徹底する。 ◆3部会や学年主任会等を定期的 to 実施し、家庭学習の内容や系統性を共有しながら、各学年で確実に取組を行う。
	④基礎学力定着のための取組	☐ 国語・算数の市販単元テスト平均85点以上 ☐ 国語・算数の市販単元テスト平均60点未満10%未満	☐ 国語・算数の市販単元テスト平均点(1学期:2学期):国語(88点:88点) 算数(87点:86点) ☐ 国語・算数の市販単元テスト平均60点未満(1学期:2学期):国語(3.3%:3.3%) 算数(4.1%:4.4%) ◎授業、ひかりタイム(帯タイム)、中小タイム(学校裁量時間)、家庭学習、加力学習等のサイクル化を意識し、学力の定着を図ることができた。	3.6		◆来年度は、低学年を中心に学力低位層の児童には、「放課後学びの教室」を勧め、学力の定着を図る。 ◆学力の向上・定着に向けて、典型・良質教材を学校ぐるみで選定活用するとともに、個別最適な学びのためタブレットを効果的に活用した習熟・発展学習を展開する。
(2) 生徒指導	①いじめの防止等のための取組	☐ アンケートで「いじめはどんなことがあってもいけないことだ」と回答する児童100% ☐ 学校生活アンケートで「嫌なことを経験がある」と回答する児童30%未満	☐ いじめ件数0件 ☐ 「いじめはどんなことがあってもいけないことだ」と回答する児童:97% ◎報告・連絡・相談の徹底と管理職・SCも関与するチーム対応、問題の初期対応・早期解決の徹底に努めた。 ◎仲間づくり部会を中心に、いいところみつけなど、自尊感情を高め、相互評価と共感的な人間関係を育成する取組が広がった。 ▼教員がいない時(休み時間、放課後、下校後、休日、学童等)でのトラブルが多い。	3.1	◆教職員だけでなく、児童会役員を中心として「いじめ問題」への取り組みを展開する。 ◆「報連相」の徹底と教職員間コミュニケーションの促進を図る。管理職も関与して、早期発見・早期解決のチーム力の向上を図ると共に、児童観察、面談、アンケート等による児童理解を高める。保護者や児童が相談しやすい体制づくりに努める。	
	②不登校への総合的な対応のための取組	☐ QUアンケートで不満足・要支援群5%未満 ☐ 学校評価アンケートで「学校生活が楽しい」と肯定的評価する児童90%以上	☐ QUによる学校生活不満足群・要支援群:6.6% ☐ 学校評価アンケート(児童)「学校生活が楽しい」の肯定的評価:93.0% ◎縦断的に班活動やファミリー朝会、全校レクリエーション等を定期的に企画実施することができた。 ◎定期的に校内支援委員会を開催し、関係機関やSC、SSW等と連携、情報共有を図った。チーム対応・早期対応に努めると共に、児童や保護者の実態や要望に基づく柔軟な対応策の実行に努めた。	3.1		◆朝会等を活用して、学級、ファミリー班で意図的・計画的にエンカウンター・レクリエーション活動等を実施する。 ◆学級活動で良好な人間関係を育てる活動を効果的に導入すると共に、コミュニケーションスキルを身に付けさせる。 ◆不登校問題に関しては、SCの有効な活用を行い、関係機関とも連携を図りながら、チーム意識をもって、未然防止、初期対応、自立支援を踏まえて、適時適切な対応に努める。

[3] 学校・家庭・地域の連携・協働	①保幼小、小中の円滑な接続の推進	□中村中学校区の「学習規律」に関するアンケート全項目(1～4段階:4点満点)の平均3.5点以上 □教員の「カリキュラムマネジメント・校内研修アンケート」(1～4段階:4点満点)で保幼小、小中の円滑な接続の項目:平均3.5点以上	□教員の「カリキュラムマネジメント・校内研修アンケート」の保幼小、小中の円滑な接続の推進:3.3点/4点満点 ◎保育所・幼稚園・こども園との定期的な2回の情報交流を効果的に実施し、円滑な入学児童の受け入れと学校生活への適応、保護者対応に繋げた。 ◎夏季休業中に、低学年部会教員が愛育園とひかりこども園を訪問し、保育参観と情報交換ができた。また、ひかりこども園と津波避難訓練を実施した。 ◎1年生が保育所・こども園を訪問し、年長児と交流を深めることができた。 ◎愛育園とひかりこども園で、年長児の保護者を対象に、小学校入学に向けた説明を行うことができた。 □中村中学校区の学習規律に関するアンケート全項目肯定的評価(教師・児童):100%・94% ◎中村中学校区の教育を考える会及び小中合同校内研修で協議した内容を共有し、学級経営や授業改善につなげることができた。	3.3		◆市が策定に取り掛かっている「四万十市のこどもの育成目標及び保幼小中連携カリキュラム」に則り、園児・児童・生徒・教職員の交流を意図的・計画的に進めることで、円滑な接続を目指す。 ◆中村中学校区の学習規律の徹底を図る。 ◆中村中学校との連携の充実(小中合同校内研修:年3回、相互の授業参観等)。
	②ふるさと教育の推進	□生活科や総合的な学習の時間の年間指導計画の中でふるさと教育に関わる内容の確実な実践:計画内容実施率90%以上 □道徳性に関するアンケート(3年以上児童)の「ふるさとを愛している」:肯定的評価90%以上	□生活科や総合的な学習におけるふるさと教育に関わる内容の年間指導計画内容実施率(6学年平均):100% ◎生活科や総合的な学習、社会科や理科等の時間に、山の学習や地域学校協働本部事業等も活用して、地域を学習の場とし、地域や関係機関の方をゲストティーチャーとする授業等を計画的に実施できた。 □道徳性に関するアンケートの「ふるさとを愛している」肯定的評価(1学期・2学期):97.1%・95.0%	3.7	3.5	◆生活科・総合的な学習において、学校としてのテーマや内容について系統性とストーリー性をもたせた計画への改善を図ると共に、探究的な学びのサイクルが生まれる単元・授業づくり、子ども主体の学習へと質的転換を図る。
	③みんなであいさつ運動	□児童会、PTA学級委員、地域民生委員・玉姫の会等によるあいさつ運動の実施 □学校評価アンケートであいさつに関して肯定的評価が90%以上(児童・保護者・地域)	□学校評価アンケートによる「あいさつ」に関わる肯定的評価:保護者86.1% 児童92.6% 地域100%。 ◎年間を通して、教職員が意思統一を図りながら指導と評価を行ったり、児童会での取組(あいさつレベルの提示やあいさつ運動)を実施したりすることにより、児童のあいさつへの意識が向上した。	3.4		◆「4つのあ(あいさつ・あとしまつ・あつまり・あんぜん)」の取り組みを児童会・委員会と教職員が協働して展開する。 ◆保護者や地域の声を活かしながら、引き続き、学校・家庭・地域が連携してあいさつ運動に取り組んでいく。
	④地域学校協働本部活動とコミュニティスクール・学校運営協議会の充実	□地域学校協働本部運営委員会:年間3回実施、コミュニティスクール学校運営協議会:年間2回実施 □地域学校協働本部の活動のべ100日以上 □地域学校協働本部の活動による安心・安全で多様な教育活動の展開	□地域学校協働本部による支援活動:108回(のべ252名)、ボランティア登録者は148名(2月末時点) ◎必要な各種教育活動にボランティアを依頼するなど、地域の方との交流機会の拡大に努めた。 □地域学校協働本部運営委員会年間3回及びコミュニティスクール学校運営協議会を年間2回を計画し、それぞれ効果的な会合が開催され、有益な情報交流・意見交換が実現できた。	3.7		◆地域に出かけたり地域の方に来ていただく教育活動を展開し、地域の方との交流の機会の拡大を図るとともに、児童や教職員の指導や支援にあたるボランティアの拡充に努める。
[4] 働き方改革(業務改善)	①業務の効率化と働き方改革	□最終退校時刻(消灯・施錠を含む)年度当初・学期末(20:00)、年度当初・学期末以外(19:15):達成率95% □月3日程度の定時退校(19:00):達成率95% □月時間外勤務時間平均45時間未満の教員60%以上	□最終退校時刻達成率:93% □定時退校達成率:93% □時間外勤務時間月平均45時間以内:21% □時間外勤務時間月平均60時間以内:95% ◎毎月の職員会で平均時間外勤務時間を報告したり、声掛けを行うことで、最終退校時刻を意識し、優先順位をつけて計画的に業務を遂行することができるようになってきた。昨年度と比較すると時間外勤務時間は削減した。 ◎特別支援教育支援員、校務支援員等の配置が教員の業務軽減につながっている。 ◎▼専科制により受け持ち授業時間の軽減や校務分掌等を含めて複数指導体制構築することで、子どもに向き合う時間の確保や教材研究・各種事務時間の確保、時間外勤務時間の減少につながったが、更なる見直し・改善は必要。	2.9	2.9	◆週時程をはじめとする教育課程、校時表や各種教育活動等の見直し・改善等を行う。 ◆タブレットの活用や教材教具の蓄積等で、授業準備等の時間短縮と効率化・均質化を図る。
	①特別支援教育と支援体制の充実	□教員の「カリキュラムマネジメント・校内研修アンケート」(1～4段階:4点満点)で特別支援教育の項目:平均3.5点以上	□外部専門家を活用した支援体制充実事業年2回開催。日常的に管理職・教職員で情報・意見交換を行うことで支援体制及び支援方法の改善と充実を図ってきた。 □特別支援教育に関する教職員肯定的評価:3.0点/4点満点 ◎適宜、外部人材・専門指導者を活用し、各学級担任、特別支援学級担任、特別支援教育支援員等が連携を図りながら、配慮が必要な児童の指導や支援にあたってきた。 ◎日頃から児童の状況(困り感)を把握し、丁寧に保護者と連携を図ることで、医療機関につなげることができた。 ◎通常学級の児童に対して、特別支援学級に在籍する児童の理解学習を実施したことで、児童の関わり方や声掛けの仕方等に変化が見られた。 ▼折々に、発達障害等を含めて特別な支援を要する児童への支援のあり方の困難さに直面することが生じる。	2.9	2.9	◆通常学級にいる特別な支援を要する児童への支援のあり方と全教職員を活用した効率的・効果的な指導体制づくり。 ◆特別に支援を必要とする児童の実態把握の共有や円滑な支援・指導方策と課題解決のための各種研修の実施。

4 段階評価 (4 目標を十分に達成、 3 ほぼ目標を達成、 2 やや不十分、 1 改善を要する)

5. 学校関係者評価

◆令和6年度の各項目の評価点は妥当と思います。

学力面では、「①学力向上のための組織的な研修等の取組」については、先の会議において説明のあったように、全国学力調査の結果で引き続き全国平均を上回る等、良い結果であったと思います。高いレベルで安定していることに安心しました。こういった傾向が伝統として残るよう今後の取組も大いに進めていただきたいと思います。

ただし、項目別にみると「③予習復習の質と量を高める取り組み」が、全項目中最低の2.8は少し気になります。評定点の低さそのものより、家庭の絡む面が大きく、学校側の苦労も大きいものと推測し気になるものです。頑張ってください。

生徒指導面では、「①いじめ防止のための取組」に、その実績として

□いじめ件数0件

□「いじめはどんなことがあってもいけないことだ」に回答する児童:97%

◎報告・連絡・相談の徹底と管理職・SCも関与するチーム対応、問題の初期対応・初期解決の徹底に努めた。

◎仲間づくり部会を中心にいいところみつけなど、自尊感情を高め、相互評価と共感的な人間関係を育成する取組が広がった。とあり、大いに評価します。深刻な問題がなくとも、気を緩めず取組を継続してください。

今の中小は、先生同士のチームワークや先生と児童の関係も比較的良好と思っています。また、家庭・地域との連携もうまくいっていると思います。更なる発展に向けて取り組んでください。

◆○学力向上は、単年ではなく継続して成果が上げられ、中村小学校の取組実践が評価に繋がっていることを嬉しく思うと共に、日々のご苦勞に対し敬意を表したいと思います。

○子ども達の肯定的な姿は、教職員はもとより父さん、母さん、地域の目が一つになって実を結ぶものと感じています。風通しの良い関係が構築され、素晴らしい学校の姿に表れていることを自信に今後も更なる努力を期待しています。

○町中での小学生の姿こそ、市民の安心と評価に値する源です。

○学校だけの気づきではなく、学校以外の目や声にしっかり耳を傾け、子どもの安心・安全を最優先に迅速な対応を取られていることは大変良いことだと思います。

○知育・徳育・体育のバランスの取れた子どもを今後も温かい目で育ててください。

○四万十市の中心校、高知県の中心校、日本に誇れる小学校として、中村小学校の名を発信してください。期待しています。

◆学校評価アンケート結果等を見て、保護者・児童・運営委員ともに多くの項目で肯定的な評価が90%を超えており、日頃の先生方の取組の成果が着実に現れていると思います。また、過去に課題だった「あいさつ」なども改善されており、「子どもたちが学校生活を楽しんでいる」「お子さんは、学校生活に満足している」などの高評価につながったように思います。学力向上についてもアンケートで「授業がよくわかる」の肯定的評価が95%だったことを裏付けているように、学力調査結果が全国平均をかなり上回っており、これも先生方の研修成果だと思います。

今の中村小学校は、1年を通して常に問題意識を持ち課題の解決に向け子どもたちと一緒に取り組んでいる、非常に頑張っている先生方の姿勢が見受けられます。だからこそ、「業務の効率化と働き方改革」は更に力を入れて進めなければならないと感じました。

◆〔1〕学力向上

①学年によって学力に課題がある児童もいる中で、低学年から学力をつけていこうとする中村小学校の取組の成果が、学力定着状況調査の結果につながっていると思いました。次年度も引き続き「授業で力をつける」を合言葉に組織的な取組を期待します。

③家庭学習については、自学自習が難しい児童のように児童自身の課題や家庭環境的に協力が難しい場合もあると思います。個々人に合わせた宿題は難しいとは思いますが、児童や家庭に負担にならないような内容（質）や量等の工夫が必要ではないかと思っています。

〔4〕働き方改革

取組状況から先生方が評価指標を達成しようと努めている様子が伝わってきました。昨年度より成果が上がっていることから、更なる時間軽減を目指してほしいと思います。

〔5〕特別支援教育

特別支援教育は専門的な分野であるために実態把握や支援方法については、外部専門家の力を借りることで充実を図っていると思いますが、回数に限りがあるため先生方にとっては不十分感があることがアンケート結果からも窺えます。そこで、校内で支え合える毎月の校内支援会の中で、コーディネーターをはじめとして、これまで特別支援学級や通常学級で支援の必要な児童を担任して成果があったことなどを活発に意見交換し、支援方法をさぐり高め合う時間を充実させることを提案します。

◆いつも子ども達のことを第一に考え、学校運営に取り組んでいただきありがとうございます。学習だけでなく、生活や地域との関係性にも力を入れて様々な活動を取り入れていただき本当に感謝の気持ちしかありません。200名を超える児童があり、様々な考えをもった保護者もいると思います。全ての保護者の意見を受容することは難しいと思いますが、これからも一つ一つ丁寧な対応を続けていただけると保護者としては助かります。今年度もありがとうございます。来年度も一緒に中小を盛り上げていきましょう。